



建学の精神

神は創造において人を神のかたちに創られた。墮罪において人は神のかたちを失ったが、救済のめざすところは元の姿への全人的回復である。

三育教育は知識の追求にとどまらず、頭 (intellectual) と心 (spiritual) と身体 (physical) のすべての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること (to make people whole through Christ's love) である。



三育学院 校章・マーク
三育学院の校章は十字架と正三角形を基本とし、十字架はキリスト教のシンボルであり、三角は「知育、徳育、体育」及び、「頭と心と体」の円満な発達と成長を意味しています。

学校法人 三育学院

〒298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原1500

TEL : 0470-84-0111 FAX : 0470-84-0076



創立

明治維新後、薩摩藩の旧武家に生まれた大河平輝彦は新しい時代の指導者たるべくアメリカ留学を決意、感じるころあってクリスチャンになり、カリフォルニア州のパシフィック・ユニオン大学で聖書を学びました。

卒業近くなったある夕礼拝で「自分は近く帰国するが、誰か自分と一緒に日本に行つて伝道を助けてくれる人はいないか」と涙を浮かべて訴えました。その晩には何の反応もありませんでしたが、数日後、彼の部屋の戸口に立って「自分たちがあなたと一緒に行きましょう」と日本宣教の決意を述べた人が現われました。なんと、それは大学学長のウィリアム・C・グレンジャー教授夫妻だったのです。

果たして1896年(明治29)11月、グレンジャーと教え子の大河平の二人は横浜港に上陸、東京・芝に借家を得て予定の活動を始めました。日清戦争直後の日本は勝利に酔い、平和と自由、平等を説くキリスト教は白眼視され、国賊呼ばわりされる偏見の中、英語を教えることが日本人に近づく有利な接点と作戦を立てて、1898年(明治31)元旦に、〈芝和英聖書学校〉の看板を掲げて開校、生徒30名が集まりました。これが三育学院創立のきっかけです。

早朝からマタイ伝1章1節のイエスの系図を教科書に聖書と英語のクラスが始まり、午後は教師、生徒ともに全員作業で懸命に働きました。

本邦初のピーナツバターや黒パンを焼いては販売し、やや遅れて大河平を中心に『末世之福音』という冊子を発行して文書伝道を始め、若い軍医見習だった生徒を用いて〈光塩医院〉という名の健康と癒しの働きに取り組むなど、多角的な伝道計画の基礎を築いたのです。これは、今日、百余あるセブンスデー・アドベンチスト教会、三育学院大学をはじめ中高、小学校、幼稚園など20ほどの教育機関、東京、神戸、沖縄の3病院、食品工場、福祉施設などの先駆けとなりました。

創立の背景と歴史

グレンジャーは、言葉も環境も慣れない異国での生活に苦しみました。夫人と長女も一年後に来日しますが、アメリカ本部からの支援は途絶えがちで、生活必需品であった蚊帳までも売って、困窮をしのいだこともありました。

来日する以前から、グレンジャーにはリウマチの持病がありましたが、過労のためか1899年(明治32)急な発熱に見舞われ、尿毒症を併発して重体に陥りました。自分の死が近いことを知り、数名の生徒を病床に呼び集め「日本の同胞を愛するか」と質問、続けて「自分は使命を果たせなかった。あなたがたも主に忠実であってほしい」という最後の言葉を残して、55歳で息を引き取りました。遺言に従って、青山墓地に葬られています。

グレンジャーの奉仕はわずか3年でしたが、学長の職務を捨て、敢えて困難な日本宣教の道を選んだ犠牲的な献身により、彼が愛し、育てた日本の学生たちは、グレンジャーの跡を継いで日本各地に散り、さらに朝鮮(当時)、樺太、南の島パラオ、台湾にまで再臨使命を語り伝えました。

しかし1940年(昭和15)、皇紀二千六百年の祝賀に前後して大政翼賛会の成立、国家総動員法、治安維持法の拡大など、我が国に思想や宗教の統制が目立ち始めました。警察当局は教会への圧力を強め、SDA世界本部は全宣教師の帰国を指示しました。セブンスデー・アドベンチストの横文字名称は変更を命じられ〈安息日再臨教団〉と改名しましたが、「戦時下に“安息”とは何事か」と厳しく迫られて〈第七日基督再臨教団〉と再度改称しました。『末世の福音』誌も文部省宗教課の検閲を経なければ出版はできず、名称も『健康と人生』に変えざるを得ませんでした。

初めは共産主義を取り締まることが目的であった治安維持法に、宗教団体の活動、信仰に関する項目が加えられ、宗教班が組織されました。教会礼拝でも天皇への忠誠、最敬礼、戦勝祈願、宮城遥拝が強制されました。特高警察は身を隠して教会の集会に出席しては牧師、信徒の動きや発言、祈りの言葉まで記録して反動的な言動を細かく当局に報告し、治安維持法違反の証拠掴め、起訴、そして一斉検挙に着々と準備を重ねました。果たして1943年(昭和18)9月20日、月曜日の早朝、警察は全国のアドベンチスト教会の一斉検挙を行ない、42名の全牧師を逮捕、警察施設に連行しました。捕囚となった牧師のうち4名は過酷な状況の中で死に、遺体をひそかに下げ渡すという悲慘を味わいました。66歳のある老牧師は、桜田門に今もある警視庁の柔道場で毎日のように乱捕りの相手にされて昼に投げ飛ばされる苦痛を味わっています。

1945年(昭和20)、日本の敗戦とともに教会に自由が戻ってきました。牧師たちも釈放されて母教会に帰りました。軍の保養所になっていた三育学院キャンパスをはじめ資産は返還され、活動の再開を許されました。教師、生徒たちは徐々に集まってきて荒れたキャンパスを片づけ、1947年(昭和22)1月、三育学院再開のうれしい朝を迎えました。生徒たちはしっかり手をつなぎ、教師、職員とともに自由に声を挙げて讃美歌を歌えることに感涙し、祈りの言葉も高く空にのぼりました。辛苦を舐めた先輩牧師たちは、詩篇126篇を朗読したといいます。



創立者 William Calhoun Grainger (1843～1899年)
アメリカ・カリフォルニア州のパシフィック・ユニオン大学学長を辞して、日本伝道のために来日しました。

